

日本産甲蟲類の記(二)

鹿野忠雄

11. *Paraphaea signifera* BATES (シリグロアトキリゴミ
…………改稱) 本州に産す。

本種は日本特有の種で、屬も亦、今の所、日本固有のものである。從來九州からしか知られて居なかつた步行蟲であるが、東京附近にも稀でない。本州も分布地として報じて置く。本種の和名は、松村博士に依り、クロスチアトキリゴミと新稱されたが、翅鞘後縁が黒色で、松村博士の和名が適當でない感があるので、上記の如く改稱した。

12. *Brachynus aeneicostis* BATES 琉球に分布す。

アラヘリホソクビゴミは本州のみから知られる種であるが、余は坂口總一郎氏惠與にかかる琉球沖縄本島産の標本中に本種を見出した。琉球にも分布するものであらう。又、本種は臺灣にも産す。

13. *Casnonia Puziloi* SOLSKY 北海道に産す。

ハネアカヒラナガゴミは日本で本州を分布地として知られる種であるが余は本種を 1922 年札幌に於て捕獲した。北海道も分布地として報じて置く。

14. エソヲサムシ 朝鮮に産す。

Carabus granulatus yezoensis BATES は從來北海道にのみ知られた種であつたが、古川晴男氏は之を朝鮮温堡にて得られた。朝鮮も新分布地として報じて置く。

15. 樺太産モンキョダンハムシに就て。

Paropsides duodecimpustulata GEBLER は曾て湯淺啓温氏に依りて本誌第 2 卷第 1 號に圖説せられた種であるが、同氏も報告せられた様に、余も本種を樺太にて採集した。其の産地は次の如くである。

(1) 小沼(VIII. 12, 1924). (2) 喜美内(VIII. 7, 1924).

同氏も書いて居られる様に、余の標本も翅鞘第三列の紋は連結して居る。又、余の2頭の標本の中の1標本(喜美内産)は翅鞘第一列小楯板附近の斑紋中に小点を存するが、他の標本(小沼産)のものは中に此の黒点を缺いて居る。

16. シロスヂコガネ (*Granida albolineata* MOTSCH.)

本種は金龜子の中でも珍種の方であらう。余は今迄3度しか得た事がない。海岸の松林等に居る様であるが、又そうとも限らない。余の採集地を次に掲ぐ

- (1) 房州北條八幡濱 (VIII. 1919)
- (2) 北海道膽振國勇排郡濱厚真 (9. VIII. 1921)
- (3) 北海道雌阿寒山 (28. VIII. 1922)

17. 東京附近に於けるハンメウの産地。

ハンメウ (*Cicindela chinensis japonica* THUNBERG) は本邦産ミチオシへの中でも最も美しい種であるが、之は稍暖帯的のもので、東京附近が本州に於ける北限である様に思はれる。東京附近では高雄山に普近に居るし、又多摩川の對岸に行くと稀でない。然し、東京近郊には居ないのは面白い。曾て、澁谷で此の種が得られて面白いと、博物の友か何かに出て居た様に記憶するが、兎に角、東京では珍種である。

18. マクガタテントウ (*Coccinella Crotchii* LEWIS)

本種は珍種であらうと思つて居た、所が、1924年7月其の當時の東京昆虫採集會の人達と甲州三峠山に採集に行つた時、山麓で此の種を得た。何でも野菊見た様な草に限つて得られた様に記憶して居る。丁度同行の平山君と余が競争して、余は16頭、平山君は6頭で、勝つた様に記憶して居る。兎に角、餘り稀でないと思つたものであつた。何か其の野菊に限つて寄生する蚜蟲でも食べるものだらうと思ふ。

19. *Anaglyptus niponensis* BATES 高雄山に産す。

余は本種を増田誠氏の所藏標本中に見出した。高雄山で五月に得られて居る。余の東京附近産天牛目類目録にもれて居るので、此處に追加する。本種はシロヘリトラカミキリ (*Aglaophis colobothoides* BATES) に酷似して居るので、

同種と、普通、混同されて居る事と思ふ。

20. 蟻と間違へられたトラカミキリ。

トラカミキリ (*Clitini*) の類で、蜂に擬態したと稱せられるものは決して少くない。然し、蟻と同様の関係にあるものはない様に思ふ。余は曾て動物學雜誌第 475 號(1928)に書いた日本産甲蟲類の記(二)に於て、臺灣恒春にてクロトゲアリと誤られて觀察した一種のトラカミキリを報じた事があるが、其の時、學名は同定し得ないで居た。頃日其の種は *Perissus kankauensis* SCHWARZER (1925) である事が分つたので、とりあへず報告して置く。

オホフタホシマグソコガネの産地

昨年本誌第 3 卷第 3 號の甲蟲類雜感中へオホフタホシマグソコガネ *Aphodius elegans* ALLIBERT に就て書いて置いたところ、學友立石巖氏並びに安松京三氏から下記の通りの御知らせがあつたので兩氏の御好意を謝しここに紹介しようと思ふ。立石氏からは「若松附近の路上の牛馬の糞中に多數ゐる。又、北海岸(玄海方面)を 4 里、南海岸(洞海湾方面)を 2 里許り歩き、附近の山も可成り注意したが、この類ではオホフタホシマグソコガネが最も多いやうである。糞の 1 山に 40-50 頭ゐるものさへあつた。」とあり、安松氏の通信では「福岡附近では平地に多い種類で、秋によく馬糞中で採集される」とあつた。要するに福岡、若松附近に於ける Dung-beetle 中では最も普通に産するものに屬すると思はれる。(Jan. 1930, 神谷一男)

ヨツスヂトラカミキリの加害植物

ヨツスヂトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus* CASTELNAU et GORY は本州・四國・琉球・臺灣から知られてゐる種であるが、本州に於ては西方の暖地に産する。

余は 1927 年 7 月山口縣伊保木で數頭の本種を得た。其時何れも櫻を害して居た。本種の加害植物は從來一も知られて居なかつたから、新加害植物として報告して置く。(瀧尾増夫)